Y01a　主に小学生を対象とした天文学習プログラムの開発

○飯田　毅，高橋　淳（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）, 縣　秀彦 (国立天文台)

2004 年 6 月に茨城県の公立小学校 4 校（4〜6 年，計 733 名）で行ったアンケート結果によれば，宇宙の学習が好き，または，宇宙のことを知りたいと感じている児童が多かった。筆者の学校勤務時代の経験を振り返ってみても，児童の宇宙に対する関心は高いとともに，児童からは，疑問や課題が豊富に出されてくる。しかし，現行の小学校学習指導要領で定める「月の学習の最低ライン」は,「絶えず動いている・形が変わる・扱う月の形は 2 つ」，また,「星の学習の最低ライン」は,「空には，明るさや色の違う星がある・星の集まりは，時刻によって，並び方は変わらないが，位置が変わる・扱う星座は 2 つまたは 3 つ」であり，内容は事実の確認が中心となっている。したがって，児童が抱く疑問や課題のほうが，これらの内容よりも広範囲にわたる場合もあると考えられる。そこで，当グループは，児童の素朴な疑問に応え，天体や天文現象を正しく理解させるための発展学習プログラムの開発を行っている。この学習プログラムは，学校教育現場はもとより，社会教育施設でも広く使っていただこうというものであり，パワーポイントファイルで提供するものである。基本的には，指導者側から児童に対してプレゼンテーションすることを前提としているが，児童自身が図鑑代わりに使用することも考えて作成している。まだ，開発途中段階であるが，今回は，この学習プログラムについて紹介したい。